

県下のA型肝炎の発生状況について

山西 重機・山本 忠雄

I はじめに

1973年, Feinstone¹⁾によって糞便中にウイルス粒子が確認されて以来, 本疾患に対する研究にはめざましいものがあり, A型肝炎ワクチン²⁾の試作検討もおこなわれる段階となっている。しかし環境や食品衛生の進歩改善に伴って流行の頻度は減少している。しかし発生数は少いが劇症肝炎あるいは重症型の存在すること。また輸血によるA型肝炎³⁾も存在することが明らかとなった。

今回我々は, 中四国衛生研究所の共同研究の一環として急性肝炎実態調査をおこなった。そのうちA型肝炎の状況について報告する。

II 材料および方法

1. 患者発生数

県下に設置した内科定点16病院から報告される患者発生数を集計した。

2. A型肝炎ウイルス抗体の保有状況

香川県感染症サーベイランス事業実施定点病院を1985年10月から12月に各種疾患で受診した患者から採血した456例の血清についてELISAで抗体価を測定し年令別に集計した。

3. ELISA式

プレートにA型肝炎抗体を4℃でover nightしTween 20加PBS(PBS-T)で洗浄, 牛胎児血清を加え4℃, over night, PBS-Tで洗浄, A型肝炎抗原液を加え, 4℃ over night, PBS-Tで洗浄, 被検血清を加え, 室温で30分反応, ベルオキシンダーゼ標識A型肝炎回復期血清を加え, 室温で2時間反応, PBS-Tで洗浄, 基質液を加え, 遮光, 室温で30分静置し, 4N-H₂SO₄で反応を停止させたのち波長490nmでODを測定した。

III 結 果

1. A型肝炎の月別発生状況

1984年10月からの患者発生状況については, 図1の

とおりで, 1985年は3月と9月, 1985年は6月を中心としてピークが観察され, 調査開始以降56名の患者の発生があった。

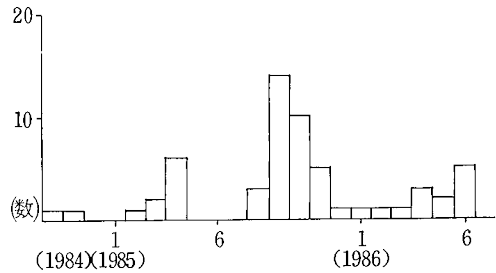


図1. A型肝炎の月別発生状況

2. 性別年令別患者状況

図2のとおりで性別比では, 男29名, 女27名で差はみられず, 年令分布では, 20~29才15名, 30~39才13名, 40~49才10名で20~49才が38名(67.9%)を占めている。

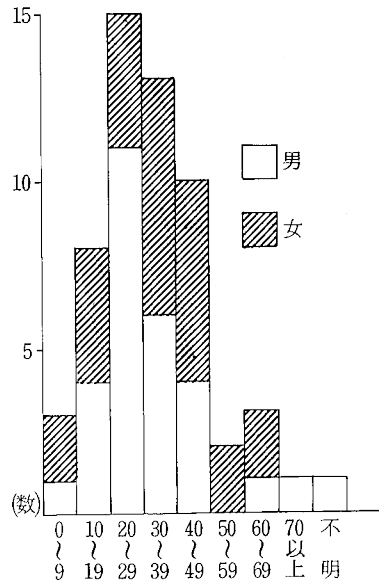


図2 性別・年令別患者状況

3. 地域別発生状況

図3のとおりでその大部分を高松市が占めている。

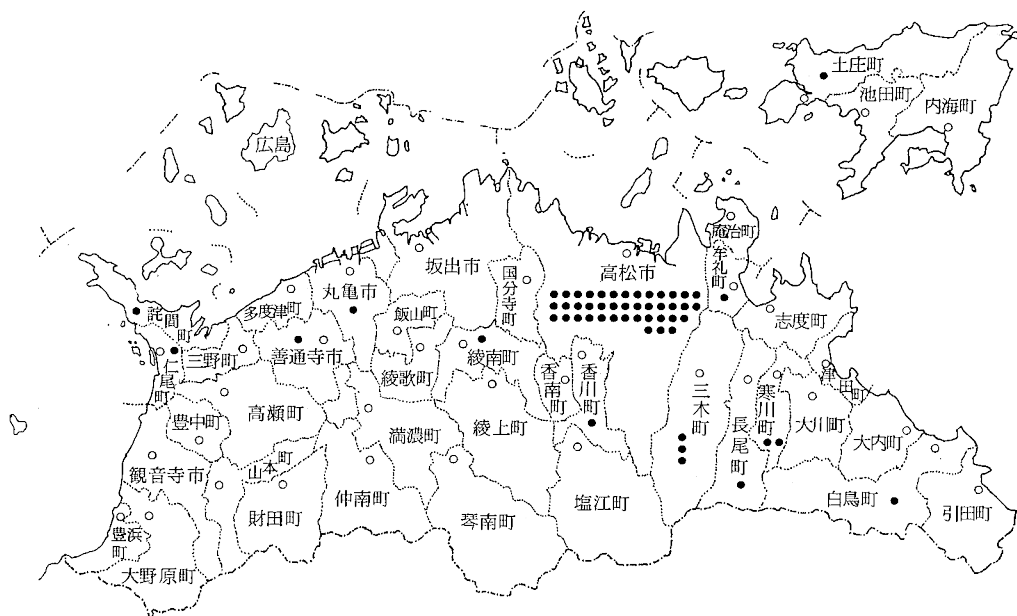


図3 A型肝炎の地域別発生状況

4. A型肝炎抗体の年齢別保有状況

年齢別の保有状況については、表1のとおりで29才までは陰性で、30才以上で抗体保有がみられ、70才以上では、94.2%と高い保有率であった。

表1 A型肝炎抗体の年齢別保有状況

年齢区分	検査数	インヒビション % 70以上	インヒビション % 70~30	インヒビション % 30未満	HAV抗体 陽性率
0~4	28	0	3	28	0
5~9	24	0	1	24	0
10~14	22	0	1	22	0
15~19	18	0	1	18	0
20~24	27	1	1	26	3.7
25~29	16	0	3	16	0
30~34	35	5	0	30	14.2
35~39	22	7	1	15	31.8
40~44	33	14	1	19	42.4
45~49	24	18	1	6	75.0
50~54	33	26	5	7	78.7
55~59	37	28	1	9	75.6
60~64	31	26	5	5	83.8
65~69	26	23	2	3	88.4
70以上	52	49	2	3	94.2
計	428	197	28	231	46.0

IV 考 察

県下のA型肝炎の発生状況は、ピークとして観察することができ、調査期間中流行形態としては確認できなかったが、これは鈴木ら⁴⁾の1983年三重県下での月別患者の発生報告で2月から5月に集中していること、また流行からみると1983年6月の福岡⁵⁾、1985年9月の大阪⁶⁾など年により季節は変わるが傾向としては同様と考える。

患者の年齢分布では0~9才の区分でも患者発生がみられるがA型肝炎抗体保有率では20~24才の区分で1例陽性がみられたが29才以下は陰性で30才以上で陽性となった。他の地域とくらべると青森市内におけるA型肝炎抗体保有率⁷⁾で0~3才で6.6%、7~9才で7.4%、20~29才で6.6%と抗体保有がみられるが30才以上で高率の保有となり、また白地ら⁸⁾の宮城県内の保有率を10才代1.1%、20才台6.8%、30才代46.3%、40才代80.5%と報告し、また鈴木ら⁹⁾の年齢別抗体陽性率とくらべても低年齢層における保有がみられず低率であるが、愛媛県高知県、徳島県の四国地域とくらべると本県と同傾向の結果であった。

文 献

- 1) Feinstone, S. M, et al: Hepatitis A; Detection by immune electron microscopy of a virus-

- like antigen associated with acute illness.
science, 182, 1026-1028, 1973.
- 2) 森次保雄他, A型肝炎ワクチン:臨床とウイルス14, 264-267, 1986.
 - 3) 市田文弘, 他:A型肝炎の臨床,臨床とウイルス12, 154-159, 1984.
 - 4) 鈴木司郎, 他:A型肝炎の疫学と予防,臨床とウイルス12, 150-153, 1984.
 - 5) 中村好一, 他:マージャン荘の井戸水が原因と考えられたA型肝炎の流行,日本公衆衛生学雑誌31, 403-409, 1984.
 - 6) 西弘次, 他:大都市保育所におけるA型肝炎の流行について,公衆衛生情報,8,16-20,1985.
 - 7) 野呂キヨウ, 他:昭和58年の青森市人血清におけるA型肝炎ウイルス抗体の保有状況,青森県衛生研究所報21,52,1984.
 - 8) 白地良一, 他:宮城県における最近のA型肝炎流行実態と血清疫学,臨床とウイルス14,331-335,1986.
 - 9) 鈴木司郎, 他:A型ウイルス肝炎,日本臨床43,619-626,1985.